



目 次

『知の象徴』の実現のために  
附属図書館に赴任して  
『5つの計画』  
電気通信普及財団の寄付金による図書購入について  
においの歴史  
日本紹介コーナー図書について  
夏季休業中の利用について  
燈火春秋③  
大型コレクション資料のご案内  
利用状況  
平成7年度図書館カレンダー（その2）

## 『知の象徴』の実現のために

### —図書館と今後—

久 野 木

このたび、平成7年4月本学図書館の事務部が新しく部課制組織となった。図書館情報サービス諸般の充実強化に寄せられる期待を思うとき、“一期生”としてその責任の重大さを痛感する。図書館運営を行政面からお手伝いしていくうえで、従前にも増してご協力をお願いする次第である。この機会に本学図書館と周辺事情について、思うところをすこしおきたい。

いま、大学図書館は、戦後最大といわれる大学改革の進行する中で、その機能も大きな変革の時期にさしかかっているといえる。図書館情報サービスが、従来からの図書資料のサービスに加え、学内LANを含めた高速通信網の整備により、学内外のデータベース検索や電子メール利用、CD-ROMなど電子媒体資料の検索、今後のマルチメディア手法によるサービス等、電子図書館機能としての多面的な方法による情報サービスの展開が求められているのである。大学図書館が教育研究及び学習活動を支援していくうえで、ますます重要な役割を担っていくわけである。

一方、文部省は、わが国の学術研究の推進にあたって、情報提供基盤の整備を主として大学図書館機能の高度化、それに関連する施設整備の経費を大幅に計上した。また、学術情報システム関連では、ネットワーク通信網の高速化や大学図書館のマルチメディア化への取組み等の経費の伸びも顕著とした。いわば大学改革はまず大学図書館から開始しようとするもので、この方面の平成7年度予算の対前年度比の伸び率9.8%からみても、このことは自明であろう。

他方、本学附属図書館の場合はどうであろうか。サービス内容、サービス体制、あるいは経営基盤等はどうか。図書館が利用者で賑わっているか。施設はどうか。これらの問いかけについては、いずれ自己点検・評価として、各種の事項の検証が行われる予定であるが、大学図書館機能としては課題が多いようである。それは、つまるところ、大学の「タテ」の側からの図書館の位置付け、運営経費の構成と額、資源共有の考え方等にあるようである。

さいわい、本学は、大学改革の一環として、平成

6年3月に新図書館構想検討委員会を発足させ、全学的な立場から図書館の将来構想を検討してきた。そして、本年1月『図書館機能の強化・高度化について—鳥取大学新図書館構想（答申）』をまとめた。これより先、平成5年12月学術審議会学術情報部会が、大学の国際化や情報化、生涯学習の進展に大学図書館も対応する必要があるとの提言を行った頃、本学図書館でも独自に近未来の図書館のあり方を検討していたが、その時の構想を更に本格的に審議しなおしたものであるということができ、その意味においても、この答申は誠に時宜を得たものといえる。

その答申は、本学図書館を学習図書館・研究図書館・保存図書館としての基幹施設とし、学術情報発信基地と位置付けする。内外とのネットワーク強化・情報資料の充実・予算構成のあり方の抜本的改革等を打ち出し、結論として高機能の情報サービスを支える新図書館の建設におよぶ。もちろん90キロ遠隔の医学部分館も傘下にある。現時点では飛躍している部分が少なくないが、かつて、ウィリアム・オスラー博士が大学は図書館からつくれと提唱したように、“図書館の充実を最優先に”（館報83号）審議を依頼した林前学長の意向が十分にうかがえる。この意志は高橋新学長に引き継がれた。

答申の具体化を進めるには、サービス基盤と体制、経営管理の事項を主に、いま実施可能のものからとりかかることであろう。最も難点があるのは、研究者からみて“共同利用の推進の観点から図書館資料の集中管理—配架を計ること”と“情報コストの圧縮”というあたりであろう。しかしながら、研究の学際化、予算の伸び悩み、資料価格の高騰そしてニューメディアの活用という状況下では、どうしてもふみ込んでいかねばならない。

いま、検討の端緒についたばかりである。曲折はあろうが、総論賛成各論も賛成となるよう建設的な形でまとまっていくことを願わざるをえない。

余談ではあるが、筆者は最近海外の大学図書館や研究所、博物館等の運営を視察する機会があった。アメリカの大学では、図書館が大学のセンターであり、学生や研究者の日常生活の中心となっていて活気があること、また、ヨーロッパ、特にイギリス、

フランス、イタリアでは博物館などを大切にしている。他の外国でも同様のところがあるだろう。「文化」の保存継承の基本姿勢が、わが国の場合と比較してあまりに違いすぎるのである。わが国は、少なくともこれまで、「文化」への政策が乏しすぎた。

本学図書館には、閲覧室の一角に藩主池田公の直筆手簡や絵画の掛軸、狩野派の合作絵画、また、石谷孝二氏の彫刻などが陳列されていて、さしづめミニギャラリーをなしている。大変特徴ある贅沢な情景がここにはある。大学図書館も大学の文化施設であるから、風格のある、潤いもある、親しみやすい施設として建造し、運営にも工夫する必要があると考える。

さて、ここで図書館員のことを取り上げたい。いま館員はサービス機能を高めるための、高度化多様化する情報技術の修得に多忙である。次々と新しい情報や資料が往来する。情報の加工生成も行う。その生きている「情報館」を支えるのに、いま一番の課題はスタッフの確保である。少数でも業務を乗り切れるようにコンパートメンタリズムを排するのも課題である。ともあれ、学習や研究活動に深く係わるだけに、スタッフの確保について関係者の理解を願いたいところである。

以上、若干僭越のそしりを免れないが、図書館に向いて頂くよすがとしたい。

（事務部長）



## 附属図書館に赴任して

原 壽 博

平成7年度、附属図書館に部課長制度が制定され、4月1日付で情報管理課長として着任しました。

出身は、米子市で2年前に本学医学部から、事務局経理部へ配置換になり、この度、初めての図書館業務に携わることになりました。

今まで、外から見ていた図書館と内に入って見る図書館では、まったく相違しており、図書館のイメージは、本を所蔵して閲覧、貸出しをする受身（利用者待）であったものが、今や大学図書館は学内LANなど情報基盤の整備が急速に進展する中で、情報発信の拠点として期待が高まっています。

平成5年12月、学術審議会学術情報資料分科会情報部会から、大学図書館機能の強化・高度化の推進についての報告が出され、その中で種々の提言がなされていますが、それらを推進・実現するためには、図書館員の育成・確保が重要であるとされています。

また、研修機会の充実は、図書館員としての司書の専門分野に関する知識はもとより、情報処理技術や新しいメディアに関する知識等幅広い資質の向上のため、学術情報センター等で開催される各種の研修会に参加させたいのですが、予算の制約、時間的余裕が無く思うような研修ができていません。

平成7年1月、本学の一新図書館構想—（答申）がなされ、基本方針として①新しいニーズに応える機能の強化・高度化による管理とサービスの充実、②全学の学術情報のセンターに相応しい収蔵力の増強と効率化とされています。

21世紀に向けた新図書館の建設に併せて、図書館員の人材確保と研修機会の増大を図る必要があります。

図書館業務に携わって2ヶ月、暗中模索ですが、より良い図書館づくりに向けて微力を尽くしたいと考えていますので、図書館に対するご理解とご協力をお願いする次第です。

（情報管理課長）

## 『5つの計画』

河 野 建 二

二年間の社町（兵庫県）の生活から、隣の県の鳥取市に移って二ヶ月になる。気候、食物等、隣合せとはいえいろいろ違っている。さて図書館はといいますと……。

新しい図書館に異動するとすぐ、自分の課題として、無理でも5つ作ることにしている。勿論、今回は情報サービス課に限定した。以下その内容である。

1. 1階玄関ホール等の模様替えについて
2. コイン式複写機の導入について
3. 貸出冊数の上限の見直しについて
4. 学外者へも貸出することについて
5. 夜間当番等の見直しについて

これらは、最初に思い付いたことであって、今後、後から出てきたものが、この中に割り込むこともある。すぐ実行出来るものもあるであろうが、長引いた結果、無理でしたというものもあるかも分からない。

まず、1番目の1階玄関ホール等の模様替えについて、その理由を述べてみたい。事務引き継ぎで、初めて図書館の玄関に入った時、少なからず圧迫感を覚えた。天井が低いためであろうか。それが原因であれば解決は容易ではない。あるいは玄関ホールを整理して、もっと明るくしてはどうだろうか。要は、図書館の前を歩いている人に、ちょっと中に入って新聞でも読もうか、雑誌でも見ようか、という思いを起させる玄関ホールにしたい。近々実行の予定である。結果をご期待頂きたい。

次は、コイン式複写機の導入である。これにより要望の多い時間外のコピーが可能となる。また、順番待ちが多少でも解消されるであろう。一方図書館側から見ると、私費に関する業務の手間を省くことにより、近年著しく進歩している情報提供についてのコンピュータ、ネットワーク関連の技術を修得し、より高度なサービスへと移行したいところである。現在、関連部署と連絡をとりながら進めている段階

である。

3番目は、貸出冊数の上限を見直して、もっと多くの本を貸出できるようにしたい。現在の教職員5冊を15冊に、院生3冊を10冊に、学部生3冊を5冊にその内容である。学生からの希望として、3冊は少ないという意見があった。これも変更計画の大きな要因ではあるが、別の理由としては、未製本の雑誌(IDの付いていないもの)もコンピュータ処理にのせたいためでもある。利用細則の改正等少し時間が必要である。

4番目として、現在は館内閲覧のみになっている学外者へも貸出したい。図書館の開放が叫ばれている時でもあり、このことも実現したい項目である。冊数は2冊までが適当と思われる。3番目と同様、

手続を要するものである。

最後は、夜間当番の見直しについてである。現在夜間と土曜日、試験中の日曜日の時間外開館については、アルバイトの方の他に、館員も1人従事している。これをアルバイトの方だけで行うのは無理なものだろうか。時間をかけて検討したい。

さて、この5つの計画はいくつ実現出来るでしょうか。

(情報サービス課長)

## 電気通信普及財団の寄付金による 図書の購入について

図書館では、財団法人電気通信普及財団から、電気通信に関する図書・文献の購入資金として年間50万円寄付を受けることになりました。

この寄付は平成6年度から5年間継続されます。

このことにより、鳥取大学附属図書館の電気通信等に関する学生用図書をこれまで以上に充実させることが出来るようになりました。

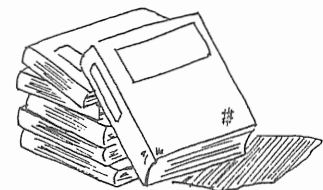
購入図書の選定は、図書館委員会内の小委員会「電気通信に関する図書選定委員会(仮称)」で行います。

選定対象は、電気通信・情報通信・高度情報社会等に関する図書・文献です。

初年度、平成6年度はNDC 5(工学)部門を重点的に選定し、購入しました。全86冊は総て閲覧室に配架しています。タイトルページに「(財)電気通信普及財団寄贈」と捺印しています。通常の図書と同じ扱いです。一般図書は2週間貸出します。参考図書は貸出しません。

どのような図書を購入したのか、利用者の皆さん

にご紹介したいのですが、今回は誌面の都合で出来ません。次回の図書館報で紹介しますので、悪しからずご了承ください。



私の選んだこの一冊

A・コルバン著 山田登世子・鹿島 茂訳

においの歴史—嗅覚と社会的想像力—

(藤原書店 1990年)

門 田 眞知子

私は歴史学が専門ではない。ただ最近のフランスの文化事情に目をやると、文学作品よりもフーコーやブローデル、デリダを始めとして、歴史学者、哲学者の作品が活気付いているように思われる。その中で、いわゆるアナール派の歴史家として、今、フランスで活躍しているのが、アラン・コルバンである。19世紀史専門家のコルバンの著作は、フランスでも日本でも人気がある。このアナール派という呼称は、最近よく使われているが、確かな定義は、私もよく知らない。たとえば、歴史家コルバンの仕事が、リュシアン・フェーヴルの提唱した〈感性の歴史〉を出発点とし、とりわけ〈心性（マンタリテ）の歴史〉をテーマティックに扱っていること、そしてこの視点がもし、従来の歴史観に欠如していたとするならば、この方面の新たな試みを、アナール派の仕事、と言うのは可能かもしれない。上に掲げた『においの歴史』（1982年、Aubier Montaigne社）は、コルバンの初期の作品の中でも代表的なものの一つである。実は私も以前、コルバンの初期の大著『娼婦』（1978年、訳本は藤原書店 1991年）の翻訳に携わったことがある。訳后感としては、コルバンの、社会の下層まで労をいとわずに下りてゆき、真実を、おもむろに発掘するエネルギーに感服したのを憶えている。コルバンは、こうして社会の下層階級の裏側までも、くまなく探求し、埋もれた事象を丹念に汲み上げ、その感性的な意味の見直しを計るのである。『娼婦』ではタイトルそのものの〈快樂の女〉の存在を、〈感性〉という要素から一貫して考察し、フランスの19、20世紀社会の「性の排泄」の構造を読みなおした。『においの歴史』は、このようなコルバンの〈心性〉の歴史家としての面目躍如た



香りのもと、南仏のハーブの市で（筆者撮影）

る作品であることにはかわりがない。

フランスはパルファン（香水）の国である。女性のオシャレと直結するこの歴史は、一見、栄光に満ちているようにも思われる。『においの歴史』では、「香り」、「薫り」の概念が、18、19世紀社会の裏側の「臭い」とアンチティックに語られてゆく。美まし「薫り」の国、フランスも、実は、とさつ場や下水道からの悪臭ガスによるおぞましい「臭気」のフランスと表裏一体をなしてきたということが、暴かれてゆく。いや、これだけでは、彼の歴史観を十分に表現してはいないだろう。実は、この本の原題は『瘴気と黄水仙—嗅覚と18、19世紀社会の想像力』である。前者は、病いをもたらす悪しき臭い、それに対峙して後者は、たおやかな芳香を漂わせる植物で、上品な香りの香水の原料でもある。ここには、18、19世紀社会の臭気に対する恐怖が、とくに上流階級を中心とする恐怖が、まず語られる。なぜなら、臭気とは、他でもない、反・上流社会であり、下級

社会のサンボルだからである。当時、ブルジョワジーは「民衆の臭いから遠く離れて」いて、「女中が長く部屋にいたり、農民が訪ねてきたり、労働者の代表団が通っていった後などには、空気を入れ替えるのが好ましかった」、就寝中は「不快な臭いに悩まされないように」「寝室から靴を遠ざける習慣があった」。というのも、〈悪臭〉は病いの原因、病原菌だと長い間、考えられていたからである。これは、パストゥールの出現まで医者達の信ずるところであった。それゆえに、医者の主たる診察は、患者の臭いを嗅ぎ、患者の健康状態での臭いと、病気独特の臭い、を嗅ぎ分けることであった。したがって長い間、〈嗅覚〉は医者において重要な部分を占めていた。病気の原因追求に、臭気をめぐって種々の実験が試みられた。だから、パストゥールが、さまざまな病気は伝染性ウイルスが原因であることを突き止めたのは、まさにフランスの医学界における革命であった。パストゥール以後、医者は〈臭い〉を全く見捨ててしまう。医者に見捨てられた〈臭い〉は、依然、時代の〈鬼っ子〉として上流階級の私生活を脅かす。日々の排泄物の処理もまた、快適な生活の敵として本質的な課題であった。「密封性の導管か、放流か」や「沈澱か溶解か」は、こうした私生活の快適さの中の〈敵〉、〈悪臭〉との戦いに纏わる描写である。

こうして、「香り」の役割も時代と共に変化する。かつて悪臭を追放するための動物性の麝香の強い匂いや、単に衛生上の意味を持っていたものから、ブルジョワジーのプライベートな室内を美化するものとして、植物性のさまざまな〈香り〉が好まれるようになる。原タイトルの「黄水仙」は、その上品さの象徴とみなされたものである。〈薫り〉はこうして、ブルジョワジーの私的空間を演出する重要な要素となってゆく。彼らの悦楽と〈薫り〉の密接な関わりを、コルバンは実際に当時の文学作品—フロベールやバルザックなど—から妙なる例を挙げて説明する。その意味で、コルバンの著作は19世紀の文化コードをあきらかにする文学史の一部でもあるといえるのである。

さて、序でにもう一冊、19世紀のフランスの文化コードに触れ、かつ「アナール派的な読み方を援用

した」最近の興味ある著作を紹介しておこう。19世紀は、メディア領域においても、画期的な出来事が起った。新聞の出現と、その社会への反響である。フランスで最初に作られた新聞は、『プレス』紙で、1836年のことであった。その数年後、初めて挿絵や図版をとり入れた『イリュストラシオン』という名の新聞が創刊される(1843年)。これは当時のブルジョワジーに向けて作られた週一回発行のメディア紙で、値段もやや高価であったようだが、その売れ行きは悪くなかったらしく、以後約百年間、続刊された。この『イリュストラシオン』のなかのさまざまなトピックを材料にした作品が、最近、京都の人文書院から出版された。タイトルは『19世紀フランス 夢と創造』。著者は小倉孝誠氏(都立大)である。

ここでは19世紀社会特有のさまざまな分野の文化現象—鉄道、飛行機、飛行船、電気、電信、地下鉄、医療、またリゾート地の発展など—のトピックが語られ、それらが新聞のイラスト、図版に依拠しつつ、19世紀フランス人たちの心理模様、その〈心性〉に迫る。さらに著者の専門のプロベール作品のみならず、鉄道を愛でた自然主義作家のゾラや、空想科学小説家のジュール・ベルヌの作品などを駆使しつつ、〈読み〉を、迫力あるものに行っている。たとえば「地下の世界」の章では、日本の岩倉具視使節団が、パリの下水道の構造に目をみはる場面も取り上げているが、石炭の発掘、トンネル工事、何よりも地下鉄工事は、地下を「解説すべき意味のある空間」とした、と説く。パリでも地下鉄の構想は早くからあったわけである(開通は1900年)。しかし、地下空間への魅力は、それ以上に、多くの文学者たちを惹き付ける「秘匿すべき行動が繰り広げられる場所」としても重要であったと説かれる。著者の〈ユメ〉と、当時のフランス人の夢とが綴織りになりつつ、19世紀フランスの社会構造が、この本においては見事に浮き彫りにされている。

(なお脱稿後、小倉著は、今年度の渋沢・クロードル賞のルイ・ヴィトン特別賞を受賞したとのニュースを得た。)

(教育学部助教授 フランス語)

## 平成6年度日本紹介コーナー図書について

平成6年度は、学生部からご協力いただいた留学生用図書購入費で、53点(54冊)の図書を購入することが出来ました。ここに一括掲載してご紹介します。留学生ばかりでなく一般の学生も大いに活用して国際交流等に役立てて下さい。

なお、選定には足立先生(教育学部:英語教育)、風間先生([教養部:日本語・日本事情] 現教育学部)のご協力を得ました。ここに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

この他、図書館の経費で購入した図書3点(6冊)、寄贈図書1点(1冊)も日本紹介コーナーに配架しています。ここに併せてご紹介します。

(このリストは書名のABC順です)

著(編)者名	書名(和文書名等)
ダンジガー, チャールズ	The American Who Couldn't Say Noh. (不思議な国日本)
土居健郎著 ハービソン訳	The Anatomy of Self. (表と裏)
ヘイドック, ユキコ	Appetizers in a Japanese Mood. (ヘイドックの日本料理)
野間清六著 ローゼンフィールド訳	The Arts of Japan,1,2. (日本美術 全2巻)
井出祥子・Mcgloin,N.H.	Aspect of Japanese Women's Language. (女ことばの姿)
米川明彦	Beyond Polite Japanese. (役にたつ話ことば辞典)
丹波基二	地名の語源と謎
金田富士彦	EASY HIRAGANA.
村田聖明	An Enemy Among Friends. (最後の留学生)
小西清子	Entertaining with a Japanese Flavor. (日本風おもてなし料理)
福田浩子著 トム・ギャリー訳	Flip,Slither, and Bang. (日本語の擬音語・擬態語)
アシュビイ, ジャネット	GAIJIN'S GUIDE. (外国人のための在日生活便利帳)
アジア学生文化協会	外国人留学生のための奨学金案内 1994—95年版
アジア学生文化協会	外国人留学生のための大学院入学案内 1993—94年版
大西 守・増茂尚志	外国人と日本人医師の臨床会話集
	1:英語編 2:ドイツ語編 3:フランス語編 4:ポルトガル語編
	5:スペイン語編 6:中国語編 7:韓国語編 8:フィリピン語編
	9:タイ語編 10:ペルシャ語編
Yamazaki,Nobutoshi 外	Handbook of Scientific and Technical Japanese. (理工学を学ぶ人のための「科学技術日本語案内」)
Ozaki,Robert S.	Human Capitalism. (日本的資本主義とは何か)
	Illustrated Japan in Your Pocket Series, (日本絵とき事典) 1, 9, 12, 13, 15, 16, 17
Fujimori,M. Nozawa,M.	An Introduction to Japanese Economics. (日本語で学ぶ日本経済入門)
Oppenheim,Phillip	Japan without Brinders. (西洋は日本から何を学ぶべきか)
Japanese for Busy People	I. (コミュニケーションのための日本語)(テキスト+カセット) セット
Japanese for Busy People	II. (コミュニケーションのための日本語)(テキスト+カセット) セット

Hijirida,K. Yoshikawa,M Tse,Peter	Japanese Language and Culture for Business and Travel. KANSAI JAPANESE (関西弁) Kodansha's Romanized Japanese-English Dictionary. (ローマ字和英辞典)
Kodansha International	Kodansha's Compact Kanji Guide. (常用漢英熟語辞典) The Man'yo-shu. 3v. (万葉集 全3巻) [図書館経費]
小出詞子 アシュビー, ジャネット 佐々木瑞枝	日本語 (にほんご/にっぽんご) READ REAL JAPANESE 日本事情 <和英対照> 日本の医療, 福祉制度ガイド 6カ国語対応 [図書館経費]
辻静雄 畑耕一郎	Practical Japanese Cooking. (初めての日本料理) 来日外国人研究者のための生活ガイドブック [図書館経費] 複本2冊
Martin.Samuel E. Maruyama,Takao 王 貞治 通商産業省	A Reference Grammar of Japanese. (日本語文法要覧) Reibun Chuushin Katakana wo Eigo ni suru Jiten. Sadaharu Oh: A Zen Way of Baseball. (王貞治物語) 対日売込み作戦 A to Z <和英対照> TRAVEL GUIDE: JAPAN (英文日本案内) Wabi, sabi, suki: the essence of Japanese beauty. [寄贈図書]
堺屋太一著 カーパ訳 Cherry,Kitredge アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター	What is Japan. (日本とは何か) Womansword (日本語の中の女) WRITING LETTERS IN JAPANESE. (日本語の手紙の書き方)

## 夏季休業中の利用について

夏休み中は次のように取扱いが変わります。  
特に学生諸君には長期貸出という特典があります  
ので、大いに利用して下さい。

1. 夏季休業日  
7月11日(火)～8月31日(木)
2. 開館時間  
9時～17時
3. 休館日  
土曜日  
日曜日  
8月14日(月)～18日(金)
4. 図書整理日  
7月31日(月)  
8月31日(木)

5. 長期貸出 (学生のみ)  
取扱期間：6月27日(火)～8月11日(金)  
返却期限：9月7日(木)まで  
貸出資料：一般図書 (雑誌は除く)  
貸出冊数：1人3冊まで  
※教職員は平常通りの取扱いです。





## 沈む地球，昇る太陽

—ガリレオ裁判寸感—

伊 藤 恵

1

人々が毎日経験すること。それは朝であり、昼であり、夜であるもの。

人々は昇る太陽を見、沈む太陽を見て今日の1日がとにかく終わったと思う。或いは安堵し、或いは悔やみながら。

それはどちらかと言うと信仰に近い感情である。決して科学的ではない。科学的には、地球は太陽を回る軌道のどこかの位置を通過しつつ、自転しつつ、ひょっとして、沈んでいるのかも知れない。

2

誰が、この我々の踏みしめる大地が動く、などと考えたろう。科学技術の高度に発達した20世紀末に生きる我々にしても、一体どれだけの人が「地球は動いている」と自覚しているだろう。

ほとんど総ての人が「陽はまた昇る」の天動説であり、大地は不滅だと信じているのではなかろうか。

しかし、映像によってはっきりと映しだされた、地球の丸い姿が。空間にポカンと浮いている地球が。

3

今から380年程前のこと、イタリアで1人の科学者が、地動説の確信を得た。その名はガリレオ・ガリレイ。今日では近代科学の基礎をつくった偉大な人物の1人と言われている。

4

が、当時はどうであったか。

日本では大坂夏の陣で豊臣家が滅びる頃のこと。イギリスではシェイクスピア誕生の頃のこと。アメリカ大陸には、まだ野生の幸福があった。

世界（ただし、ヨーロッパ世界）は神のおつくりになったものであり、社会の基も、ゆりかごから墓場までも、総てキリスト教会が支配していた。

人類に貢献する如何なる発見も、神の教えの否定につながるものは、神の足元を揺さぶるものは異端として闇に葬られた。神の名のもとに。

5

しかし、人は神だけでは生きられない。物質だけでも生きられない。金を抱いてあの世へは行けない。それはこれまで積み重ねてきた人類の歴史が示す客観的事実である。過去の過ちを繰り返してはならない。

6

ガリレオの事件は今日でも容易に起こり得る事件である。言はば客観的事実を率直に受け入れようとする者とそうでない者との摩擦。

7

著者サンティリャーナは、今日に残された書簡や関係文書に基づき、1つの緊迫したドラマを再現した。

読み進むにつれて、極めて現実的な1つの時代と都市と等身大の人間が、彷彿としてくるのである。

決して神を否定しているのではないガリレオの、科学的学問的発見に対する自信と、生きることの苦悩がひしひしと伝わってくる名著である。

ジョルジョ・ド・サンティリャーナ著 一瀬幸雄訳  
ガリレオ裁判

岩波書店 1973年発行 (資料サービス係長)

## 大型コレクション資料のご案内

図書館では、この度下記資料を購入しましたので、ご案内します。

- これはマイクロフィルム版のため貸出は出来ません。
- 1階視聴覚室のリーダープリンターで閲覧して下さい。
- コピーも出来ます。
- 利用時間：9：00～12：00，13：00～17：00

N E W	資料名	世界センサス集成（アジア） [マイクロフィルム版]
	内容	一般人口統計（出生・死亡・性別・構成年齢...）・所得統計（個人別・世帯別...）・労働力統計・産業統計・農業統計・土地保有統計・教育統計等
	範囲	1945年～1967，1967年以降 476リール
	収録国数	25か国

この他、大型コレクションとして次の資料も所蔵していますので、ご利用下さい。

1	Gazette des Beaux-Arts. Series, 1～6 (1859～1982) (フランス美術雑誌 [オリジナル]) 世界的に定評のあるフランスの美術雑誌。西洋美術史研究はもとより、広く美術研究全般に不可欠の雑誌。 (配架場所：開架書庫3層)
2	Columbia University Teachers College Contributions to Education. Nos.1-974 (1905—1951) (コロンビア大学教育学叢書 [リプリント]) 20世紀前半の米国教育制度の全貌を俯瞰出来る貴重な文献。 教育理念の変動期における米国教育の動向と、いかなる学問的成果が得られたかを、この叢書は如実に表わしている。 (配架場所：開架書庫3層)
3	百部叢書集成 (中国の文化的叢書 [リプリント]) 宋より清に至る主要な叢書。 中国の思想・文学・歴史等、あらゆる分野に亘る中国人の思考の成果を記述した書物の集大成。 (配架場所：閉架書庫 [別棟] 2層)

詳しくは1階カウンターまでお尋ね下さい。

担当係：情報サービス課資料サービス係 (☎内線7050)

## 附属図書館利用状況

### 年度別開館日数

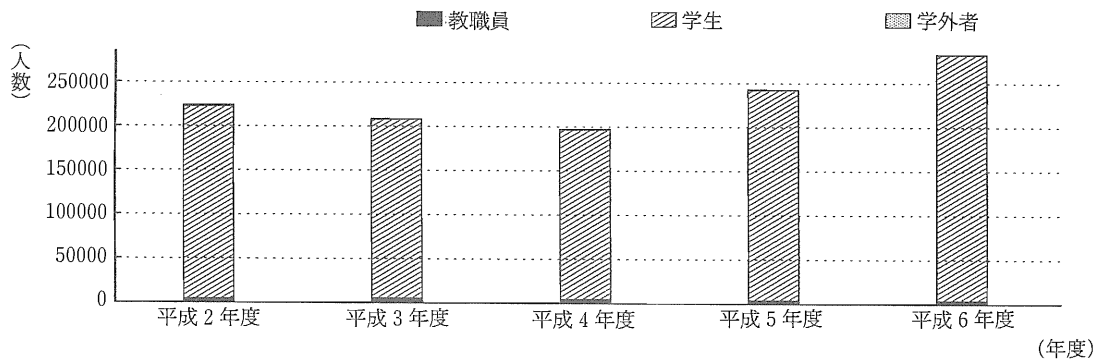
(本館)

平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
275日	276日	263日	262日	260日

### 年度別入館者数

(本館)

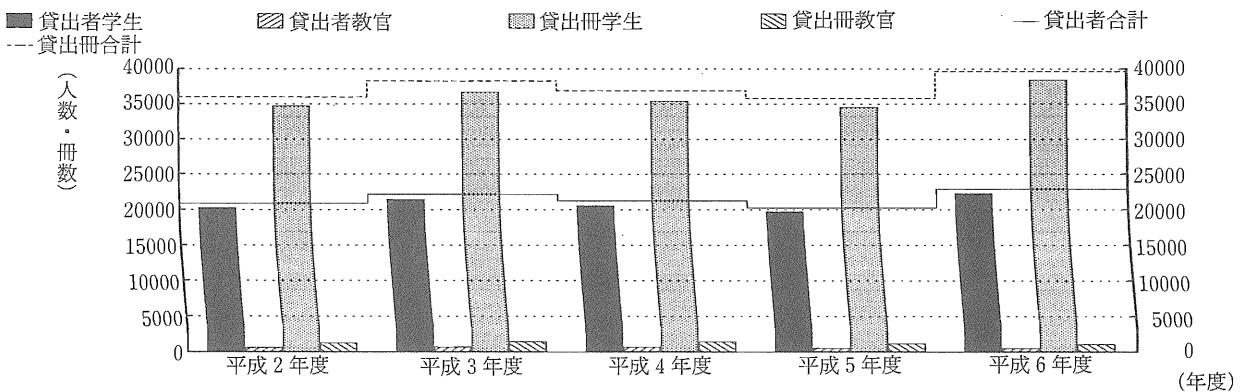
	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
教職員	4,956人	5,274人	4,841人	4,100人	3,985人
学生	218,156	203,307	192,055	238,598	277,915
学外者	1,651	1,512	1,134	1,450	1,727
合計	224,763	210,093	198,030	244,148	283,627
1日平均	817	761	753	932	1,091



### 年度別貸出数

(本館)

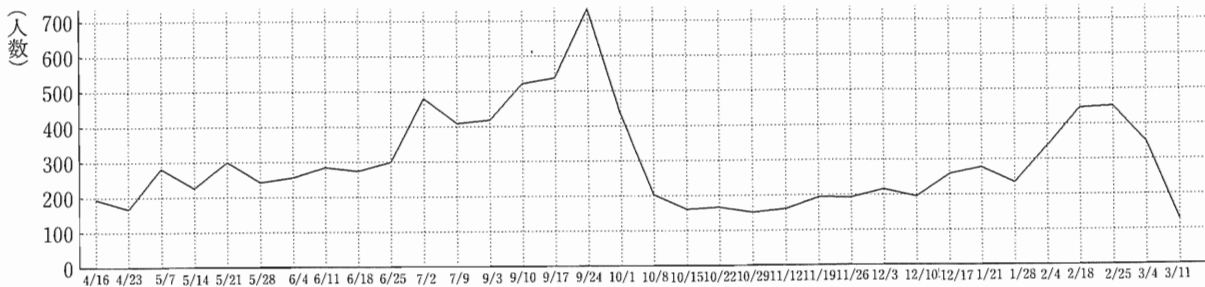
		平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度
貸出者数	教職員	638人	751人	732人	599人	584人
	学生	20,351	21,457	20,569	19,758	22,320
	学外者	—	—	—	—	6
	合計	20,989	22,208	21,301	20,357	22,910
貸出冊数	教職員	1,274冊	1,540冊	1,483冊	1,201冊	1,180冊
	学生	34,736	36,758	35,462	34,633	38,514
	学外者	—	—	—	—	9
	合計	36,010	38,298	36,945	35,834	39,703
1日平均貸出冊数	教職員	5冊	6冊	6冊	5冊	5冊
	学生	126	133	135	132	148
	学外者	—	—	—	—	0.02
1人1回当り平均貸出冊数	教職員	2冊	2.1冊	2冊	2冊	2冊
	学生	1.7	1.7	1.7	1.8	1.7
	学外者	—	—	—	—	1.5



平均6年度土曜日入館者数  
(平均6年4月～平成7年3月：34日間)

	4/16	4/23	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	9/3	9/10	9/17	9/24	10/1	10/8
入館者数	195	167	281	225	300	242	255	284	273	299	480	409	419	521	537	734	433	204
	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17	1/21	1/28	2/4	2/18	2/25	3/4	3/11	
	161	167	152	臨時休館	161	194	193	216	195	258	277	233	337	446	451	352	130	
	合 計 10,181																	
	1日平均 299																	

—入館者数



(開館日)

## 平成6年度学外者利用内訳

## 1. 入館者数

- (1) 通常の入館者 1,727人 (延べ) (5年度：1,450人 4年度：1,134人)
- (2) 図書館公開の日 256人 (延べ)

展示会場入場者	148人
図書館見学者	108人

※利用許可願の記入はせず、自由に出入りしてもらった。

以下は通常の入館者1,727人についての内訳

## 2. 利用者数 (利用許可願数)

順位	内 訳	人 数	比 率
1	1日だけの利用	39人	56 %
2	長期(3ヶ月)利用	31	44
	合 計	70	100

## 3. 職業別内訳

1	その他	23人	33 %
2	会社員	14	20
3	公務員(事務系など)	13	19
4	教員(含：予備校講師)	7	10
5	学生②(中・高・専攻科生)	4	5.5
5	学生①(大学生・院生)	4	5.5
6	自営業	3	4
7	大学教職員	2	3
	合 計	70	100

## 4. 地域別内訳

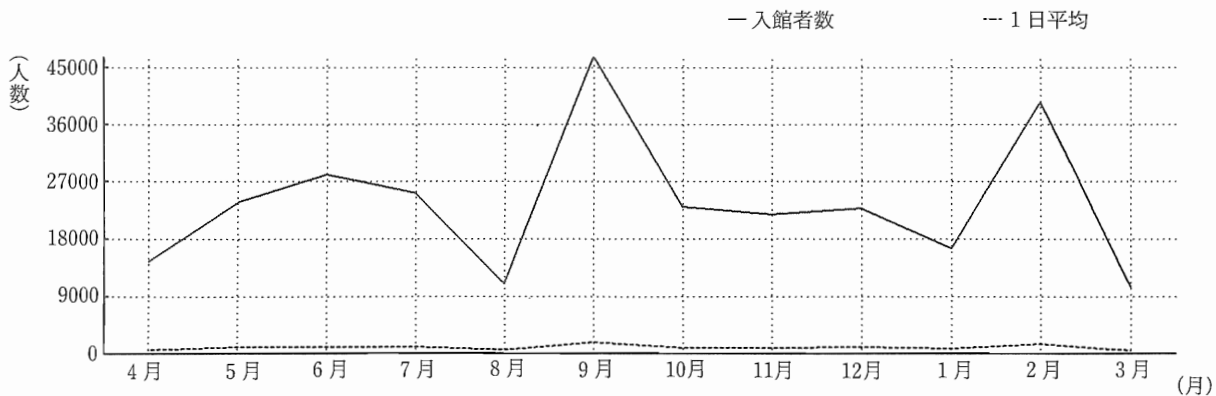
1	鳥取市	37人	53 %
2	郡部	20	29
3	県外	8	11
4	米子市	2	3
4	倉吉市	2	3
5	境港市	1	1
	合 計	70	100

## 5. 利用内訳

1	文献調査	39人	56 %
2	閲覧	26	37
3	学習	4	6
4	見学	1	1
	合 計	70	100

平成6年度月別入館者数  
(本館)

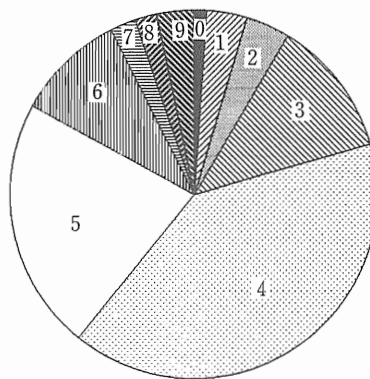
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	14,466人	23,705人	28,164人	25,206人	11,093人	46,676人	23,048人	21,889人	22,738人	16,566人	39,457人	10,619人
1日平均	689	1,129	1,174	1,146	653	1,795	1,048	995	1,137	871	1,578	506



平均6年度分類別貸出冊数  
(本館)

分類	貸出冊数
総数	39,703冊
0 総記	387
1 哲学	1,361
2 歴史	1,436
3 社会科学	4,706
4 自然科学	15,982
5 工学	8,819
6 産業	3,800
7 芸術	916
8 語学	880
9 文学	1,416

■ 0 総記    ▨ 1 哲学    ▩ 2 歴史    ▪ 3 社会科学    ▫ 4 自然科学  
 □ 5 工学    ▬ 6 産業    ▮ 7 芸術    ▯ 8 語学    ▰ 9 文学



平成7年度図書館カレンダー（その2）

曜日	8 月	9 月	10 月	11 月
日	7.11～8.31：夏季休業日		☺	
月			2	
火	1		3	
水	2		4	1
木	3		5	2
金	4	1	6 図書整理日	3 ●文化の日
土	5 ●	2	7	4
日	6 ●	3 ●	8 ●	5 ●
月	7	4	9	6
火	8	5	10 ●体育の日	7
水	9	6	11	8
木	10	7	12	9
金	11	8	13	10
土	12 ●	9	14	11
日	13 ●	10 ●	15 ●	12 ●
月	14 ●	11	16	13
火	15 ●	12	17	14
水	16 ●	13	18	15
木	17 ●	14	19	16
金	18 ●	15 ●敬老の日	20	17
土	19 ●	16	21	18
日	20 ●	17 ●	22 ●	19 ●
月	21	18 前期定期試験開始	23	20
火	22	19	24	21
水	23	20	25	22
木	24	21	26	23 ●勤労感謝の日
金	25	22	27	24
土	26 ●	23 休日開館 秋分の日	28	25
日	27 ●	24 休日開館	29 ●	26 ●
月	28	25	30	27
火	29	26	31 図書整理日	28
水	30	27		29
木	31 図書整理日	28		30 図書整理日
金		29		
土		30		

(開館時間)

□ 9：00～20：00

□ 10：00～16：30

■ 9：00～17：00

■ 図書整理日

(一般閲覧室のみ開室)

● 休館日

鳥取大学附属図書館報 第85号 (1995年6月発行)

編集・発行：鳥取大学附属図書館 〒680 鳥取市湖山町南4丁目101 ☎0857-31-6728